

令和7年度事業報告



日本赤十字社山梨県支部

目 次

I 支部事業について

- 1 救援活動について 1
- 2 赤十字講習の普及状況について..... 4
- 3 赤十字ボランティアの活動状況について..... 6
- 4 青少年赤十字の活動状況について..... 1 0
- 5 献血事業について..... 1 0
- 6 赤十字社旨普及活動について..... 1 0

II 施設事業

- 1 山梨赤十字病院..... 1 2
- 2 山梨県赤十字血液センター..... 1 5

I 支部事業について

1 救援活動について

(1) 災害救護活動

○令和7年度救護員等の派遣要請なし

(2) 臨時救護活動

○護国神社例大祭（春季） 救護員 3名（看護師2名、主事1名）

(3) 義援金・救援金

ア 義援金

義 援 金 名 称	件 数	金 額
令和6年能登半島地震災害義援金	77件	4, 158, 974円
令和6年9月能登半島大雨災害義援金	28件	1, 773, 659円
令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金(岩手県)	20件	497, 376円
令和7年トカラ列島近海を震源とする地震災害義援金	6件	12, 720円
令和7年台風第8号に伴う災害義援金	5件	30, 260円
令和7年8月6日からの大雨災害義援金	16件	162, 985円
令和7年台風第 12 号災害義援金	9件	63, 822円
令和7年台風第 15 号災害静岡県義援金	11件	96, 660円
令和7年台風第 22 号及び第 23 号災害義援金	7件	54, 268円
令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災義援金	30件	2, 388, 340円
令和7年青森県東方沖地震義援金	3件	3, 781円
合 計	212件	9, 242, 845円

○受付が終了した義援金

- ① 令和7年トカラ列島近海を震源とする地震災害義援金(令和7年12月26日受付終了)
- ② 令和7年台風第8号に伴う災害義援金(令和7年12月26日受付終了)
- ③ 令和7年8月6日からの大雨災害義援金(令和8年3月31日受付終了)
- ④ 令和7年台風第12号災害義援金(令和7年12月26日受付終了)
- ⑤ 令和7年台風第15号災害静岡県義援金(令和7年12月8日受付終了)
- ⑥ 令和7年台風第22号及び第23号災害義援金(令和8年1月30日受付終了)
- ⑦ 令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災義援金(令和8年3月31日受付終了)
- ⑧ 令和7年青森県東方沖地震義援金(令和8年3月31日受付終了)

イ 救援金等

救 援 金 等 名 称	件 数	金 額
NHK 海外たすけあい	631件	6, 089, 934円
中東人道危機救援金	0件	0円
バングラデシュ南部避難民救援金	0件	0円
ウクライナ人道危機救援金	12件	876, 282円
2025 年ミャンマー地震救援金	20件	518, 993円
2025 年アフガニスタン地震救援金	1件	5, 894円
2025 年パキスタン洪水救援金	0件	0円
イラン及び周辺国人道危機救援金	0件	0円
合 計	664件	7, 491, 103円

○受付が終了した救援金

- ① 2025年ミャンマー地震救援金(令和7年6月30日受付終了)
- ② 2025年アフガニスタン地震救援金(令和7年11月28日受付終了)
- ③ 2025年パキスタン洪水救援金(令和7年11月28日受付終了)

(4) 救援物資配分及び備蓄状況(令和8年3月31日)

品 名	配分数	備蓄数	備考
毛 布	5枚	5, 522枚	
緊急セット	2個	820個	
安眠セット	0個	517個	

* 上記以外に地区分区(市町村)に毛布2, 650枚、緊急セット360個の備蓄があります。

(5) 参加訓練・研修会

月 日	行 事	会 場	参 加 者 数	
10月5日	甲府市総合防災訓練	甲府市立 山城小学校	救護員(救護班)	6
			災害対策本部要員	2
10月11日 ～12日	第2ブロック赤十字救護班 研修	前橋赤十字病院	受講者	1
			スタッフ	1
11月9日	甲府市自治会連合会防災 訓練	自治会連合会各会場	支部職員	3
			防災ボランティアリーダー	1
1月31日 ～2月1日	第2ブロック支部総合訓練	東京都武蔵野市等	救護員(救護班)	6
			災害対策本部要員	4

3月3日～ 4日	第2ブロック支部ロジスティクス訓練	富士緑の休暇村	スタッフ	3
-------------	-------------------	---------	------	---

(6) 赤十字奉仕団員等災害救護訓練

日 程	10月9日	10月16日	10月24日	10月29日	合 計
地 区 名	富士・東部地域	峡南地域	峡東地域	中北地域	
会 場	大月市民総合体育館(中止)	市川三郷町生涯学習センター	甲州市塩山体育館	昭和町総合体育館	
奉 仕 団 員	—	46	70	57	173
地区分区職員	—	8	13	11	32
指 導 者	—	10	8	10	28
合 計	—	64	91	78	233

(7) 赤十字防災セミナー

月 日	主 催	会 場	受講者数
5月28日	日本赤十字社市川三郷町分区・市川三郷町奉仕団	市川三郷町役場	48
6月23日	県立青洲高等学校	県立青洲高等学校	37
11月23日	山梨県歯科衛生専門学校	山梨県歯科衛生専門学校	43
1月20日	日本赤十字社山梨市地区・山梨市赤十字奉仕団	山梨市民会館	26
1月29日	日本赤十字社山梨市地区・山梨市赤十字奉仕団	山梨市民会館	26

(8) 救護員養成

日本赤十字看護大学

	1学年	2学年	3学年	4学年	合 計
在学生数	0	0	0	2	2

(9) 日本赤十字社看護師同方会山梨県支部

会員数 171名 顧問 保延 登芽子 〃 渡邊 和彦 〃 鹿間 裕介 会長 岡本 理恵 副会長 清水 邦子 〃 村木 久子 幹事 平賀 祐湖 〃 田中 みや子 〃 渡辺 久子 監事 渡辺 満穂	○年間活動 ・総会 令和7年7月8日(火) 山梨赤十字会館 参加者:5名(参集)、4名(Web) ・研修会 令和7年12月12日(金) 参加者:26名 ・役員会の開催 ・山梨県護国神社例大祭での救護所開設(春) ・支部主催事業への協力
---	--

2 赤十字講習の普及状況について

講習実施状況

区 分	短期講習		養成講習		合 計	
	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数
救急法基礎	87	2,436	21	380	108	2,816
救 急 法	47	1,165	9	154	56	1,319
水上安全法	0	0	1	1	1	1
雪上安全法	0	0	0	0	0	0
幼児安全法	10	227	2	9	12	236
健康生活支援講習	1	18	0	0	1	18
合 計	145	3,846	33	544	178	4,390

救急法指導員養成講習

主 催	月 日	会 場	養成者数
日本赤十字社山梨県支部	2月18日 ～22日	日本赤十字社山梨県支部	15

(1)救急法(指導員数82名)

○救急法基礎講習

主 催	月 日	会 場	受講者数
山梨赤十字病院看護部	4月8日	山梨赤十字病院	14
富士吉田市看護専門学校	4月10日	富士吉田市看護専門学校	33
山梨トヨペット株式会社	4月24日	山梨トヨペット株式会社	14
山梨森林協会林業労働センター	5月20日	山梨県木材協会	10
株式会社アドブレン社	5月21日	山梨文化会館	20
株式会社トリケミカル研究所	6月20日	株式会社トリケミカル研究所 Annex 棟	12
甲府ビルサービス株式会社	7月14日	韮崎市民交流センター	8
日本赤十字社山梨県支部	7月16日	緑が丘スポーツ公園	1
健康科学大学トレーナークラブ	7月19日	健康科学大学河口湖キャンパス	27
日本赤十字社山梨県支部	7月23日	山梨赤十字会館	16
日本赤十字社山梨市地区・山梨市赤十字奉仕団	8月6日	山梨市民会館	20
甲府ビルサービス株式会社	8月8日	リッチダイヤモンド総合市民会館	11
日本赤十字社西八代・南巨摩地区	8月21日	早川町役場	22
日本赤十字社西八代・南巨摩地区	8月22日	富士川町役場	20
山梨県警察本部	9月3日	山梨県警察学校	28
株式会社トリケミカル研究所	9月18日	株式会社トリケミカル研究所 Annex 棟	14
日本赤十字社山梨県支部	9月24日	山梨赤十字病院	7
日本赤十字社山梨県支部	11月5日	山梨赤十字会館	15
山梨県歯科衛生専門学校	11月18日	山梨県歯科衛生専門学校	48
山梨県警察本部	1月6日	山梨県警察学校	24
日本赤十字社山梨県支部	1月10日	山梨赤十字会館	26
日本赤十字社山梨県支部	3月7日	山梨赤十字会館	21

○救急法救急員養成講習

主 催	月 日	会 場	受講者数
山梨赤十字病院看護部	4月8日 ～10日	山梨赤十字病院	14
山梨トヨペット株式会社	4月24日 ～26日	山梨トヨペット株式会社	14
日本赤十字社山梨県支部	7月23日 ～25日	日本赤十字社山梨県支部	16

山梨県警察本部	9月3日 ～19日	山梨県警察学校	28
日本赤十字社山梨県支部	9月24日 ～26日	山梨赤十字病院	7
日本赤十字社山梨県支部	11月5日 ～7日	日本赤十字社山梨県支部	15
山梨県歯科衛生専門学校	11月18日 ～20日	山梨県歯科衛生専門学校	48
山梨県警察本部	1月6日 ～23日	山梨県警察学校	24
日本赤十字社山梨県支部	1月16日 ～17日	日本赤十字社山梨県支部	10
日本赤十字社山梨県支部	3月13日 ～14日	日本赤十字社山梨県支部	12

(2) 水上安全法(指導員数4名)

○水上安全法救助員養成講習Ⅰ

主 催	月 日	会 場	受講者数
日本赤十字社山梨県支部	7月16日 ～18日	緑が丘スポーツ公園屋内・野外プール	1

(3) 幼児安全法(指導員数 15 名)

○幼児安全法支援員養成講習

主 催	月 日	会 場	受講者数
日本赤十字社山梨県支部	5月8日 ～9日	山梨赤十字会館	6
日本赤十字社山梨県支部	8月28日 ～29日	山梨赤十字病院	3

3 赤十字ボランティアの活動状況について

(1) 地域赤十字奉仕団(2, 801人:令和8年3月31日現在)

(単位:名)

月 日	行 事	会 場	参加者数
6月6日	赤十字奉仕団山梨県支部委員会	山梨赤十字会館	16
7月3日～4日	赤十字奉仕団中央委員会	本社	1

10月16日	赤十字奉仕団等災害救護訓練(峡南地域)	市川三郷町生涯学習センター	64
10月24日	赤十字奉仕団等災害救護訓練(峡東地域)	甲州市塩山体育館	91
10月29日	赤十字奉仕団等災害救護訓練(中北地域)	昭和町総合体育館	78
11月7日	日本赤十字社第2ブロック支部赤十字奉仕団 委員長・担当者会議	日本赤十字社東京都支部	1
11月13日	赤十字ボランティア基礎研修会	山梨赤十字会館	44
3月5日	赤十字奉仕団委員長研修会	山梨赤十字会館	20

移動献血バスに対する奉仕活動

地区・分区	回 数	参加者数	地区・分区	回 数	参加者数
甲 府 市	3	10	早 川 町	-	-
富 士 吉 田 市	1	4	身 延 町	4	20
都 留 市	2	6	南 部 町	2	7
山 梨 市	3	17	富 士 川 町	2	6
大 月 市	2	4	昭 和 町	3	22
韮 崎 市	3	5	道 志 村	2	3
南アルプス市	9	32	西 桂 町	2	4
北 杜 市	10	20	忍 野 村	-	-
甲 斐 市	5	15	山 中 湖 村	2	4
笛 吹 市	6	25	鳴 沢 村	2	6
上 野 原 市	2	7	富士河口湖町	4	12
甲 州 市	7	24	小 菅 村	-	-
中 央 市	4	16	丹 波 山 村	1	2
市 川 三 郷 町	3	12	計	84	283

(2) 青年赤十字奉仕団(8名:令和8年3月31日現在)

月 日	行 事	会 場	参加者数
5月17日	青年赤十字奉仕団全国協議会(第1回)	Web 開催	1
6月28日	第2ブロック支部青年赤十字奉仕団連絡協議会 (第1回)	Web 開催	1
11月22日 ～23日	第2ブロック支部青年赤十字奉仕団連絡協議会 (第2回)	日本赤十字社埼玉県支部	1
1月17日	青年赤十字奉仕団全国協議会(第2回)	Web 開催	1

■定例会 随時

(3)特殊赤十字奉仕団

ア 無線赤十字奉仕団(24名:令和8年3月31日現在)

月 日	行 事	会 場	参加者数
4月13日	非常無線通信訓練(岐阜県)	団員自宅	1
4月20日	非常無線通信訓練(兵庫県)	団員自宅	1
5月31日	総会	山梨赤十字会館	7
6月6日	赤十字奉仕団山梨県支部委員会	山梨赤十字会館	1
6月7日	非常無線通信訓練(大阪府)	団員自宅	1
7月19日	非常無線通信訓練(北海道)	団員自宅	1
7月27日	非常無線通信訓練(栃木県)	団員自宅	1
8月31日	非常無線通信訓練(栃木県)	団員自宅	1
10月16日	赤十字奉仕団員等災害救護訓練(峡南)	市川三郷町生涯学習センター	6
10月29日	主催野外非常無線通信訓練	昭和町総合体育館	6
11月2日	非常無線通信訓練(和歌山県)	団員自宅	1
11月15日	非常無線通信訓練(静岡県)	団員自宅	1
12月21日	非常無線通信訓練(愛知県)	団員自宅	1
2月15日	非常無線通信訓練(大阪府)	団員自宅	1
2月15日	活動 PR・団員募集	JARL 技術講習会場	2
2月22日	非常無線通信訓練(茨城県)	団員自宅	1
3月21日	非常無線通信訓練(島根県)	団員自宅	1
3月22日	非常無線通信訓練(島根県)	団員自宅	1
3月24日	主催非常無線通信訓練	山梨赤十字会館	7
月1回	団員ロールコール訓練	各団員自宅	3~7

イ 安全赤十字奉仕団(43名:令和8年3月31日現在)

月 日	行 事	会 場	参加者数
4月27日	総会	山梨赤十字会館	8
4月27日	団員研修会	山梨赤十字会館	8
6月6日	赤十字奉仕団山梨県支部委員会	山梨赤十字会館	1
11月23日	ヴァンフォーレ甲府スタジアム救護	JIT リサイクルインクスタジアム	1

ウ 救護赤十字奉仕団(27名:令和8年3月31日現在)

月 日	行 事	会 場	参加者数
5月11日	柔道大会救護活動(関東ジュニア大会)	小瀬スポーツ公園武道館	1
6月14日	柔道大会救護活動(全国高校総体県予選)	小瀬スポーツ公園武道館	1
7月6日	柔道大会救護活動(県下少年柔道大会)	小瀬スポーツ公園武道館	2

9月27日	柔道大会救護活動(高校柔道新人大会)	小瀬スポーツ公園武道館	1
12月7日	柔道大会救護活動(関東柔道山梨予選)	小瀬スポーツ公園武道館	1

エ 赤十字救援バイクV・Sやまなし(103名:令和8年3月31日現在)

月 日	行 事	会 場	参加者数
4月27日	総会	山梨赤十字会館	22
6月6日	赤十字奉仕団山梨県支部委員会	山梨赤十字会館	1
10月15日	甲府市総合防災訓練	甲府市立山城小学校	19
10月15日	走行訓練	甲府市立山城小学校～ 道の駅富士川	19

オ 青少年赤十字賛助奉仕団

○令和7年度より休団

カ 拡大写本赤十字奉仕団(20名:令和8年3月31日現在)

月 日	行 事	会 場	参加者数
4月21日	総会	山梨赤十字会館	15
6月6日	赤十字奉仕団山梨県支部委員会	山梨赤十字会館	1
8月22日	教科書納入 大阪市立楠根小学校 10分冊	山梨赤十字会館	1
9月17日	絵本寄贈 盲学校 3冊	県立盲学校	4
12月15日	小説寄贈 盲学校 38分冊	県立盲学校	1
3月23日	教科書納入 盲学校 13分冊 〃 大阪市立楠根小学校 33分冊	県立盲学校 山梨赤十字会館	1

■活動日 毎週月曜日 拡大写本・絵本作成 20名

(4) 個人ボランティア(令和8年3月31日現在)

ア 防災ボランティア(個人登録30名・団体登録5団体:251名)

イ 防災ボランティアリーダー(11名)

ウ 防災教育指導者(6名)

① 防災教育事業

月 日	行 事	会 場	参加者数
5月30日	第1回防災教育事業主任指導者研修	Web 開催	1
10月20日 ～21日	第2回防災教育事業主任指導者研修及び フォローアップ研修	日本赤十字社本社	1

(5) 赤十字奉仕団指導講師(6人:令和8年3月31日現在)

月 日	行 事	会 場	参加者数
8月29日	第1回奉仕団指導講師会議	山梨赤十字会館	4
11月13日	赤十字ボランティア基礎研修会	山梨赤十字会館	4

4 青少年赤十字の活動状況について

青少年赤十字については、各学校の主体性を守って取り組んでもらい、活動支援(赤十字学習会など)が必要な場合には対応し、支部事業は休止しております。

5 献血事業について

血液製剤の安定供給体制を確保するための各種会議等への参加。

月 日	行 事	会 場	参加者数
4月25日	令和7年度山梨県献血推進協議会	山梨赤十字会館	1
5月21日	令和7年度血液事業推進会議及び市町村血液事業担当者会議	山梨県防災新館オープンスクエア	1
10月17日	献血感謝のつどいin山梨	山梨県防災新館オープンスクエア	1
11月13日	ライオンズクラブ国際協会330-B地区と赤十字血液センター合同会議	ベルクラシック甲府	1

6 赤十字社旨普及活動について

(テーマ)『人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.』

支部・病院・血液センターによる運動展開

(1) 広報活動

- 赤十字運動月間 2025 の実施
 - ・赤十字運動月間キャンペーン「レッドライトアップ 2025」の実施
- 報道各社協力によるPR活動
- 「赤十字やまなし」(事業報告兼広報)山梨県下全世帯30万部配布
- ホームページによる情報発信
- 市町村広報誌の協力によるPR活動
- 市町村イベント等への赤十字ブースの出展
- 甲府商工会議所協力によるPR活動
- 山梨県中小企業団体中央会協力によるPR活動

○山梨県商工会連合会協力による PR 活動

(2) 日本赤十字社山梨県有功会

役員名

会 長	高野孫左エ門
副会長	進藤 中
	鬼頭 芳雄

会員数 248 名・社（個人67名・法人181社）

年間行事

- ・役員会・総会の開催 7月17日（木） 会場：ベルクラシック甲府
- ・仲間づくり運動と会員募集運動の推進
- ・支部事業への協力

Ⅱ 施設事業について

1 山梨赤十字病院

令和7年度における山梨赤十字病院の運営については、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「5 類感染症」へ移行して以降、社会経済活動の正常化が進み、地域における観光需要や住民活動は回復傾向を示しました。一方で、医療機関においては、コロナ禍に起因する受診行動の変化や医療従事者不足、医療提供体制の再編、さらには物価高騰等による経費増加など、依然として厳しい経営環境が続く年度となりました。

当地域は、富士山を中心とした世界有数の観光地として国内外から多くの観光客を迎えており、インバウンド需要もコロナ禍以前を上回る水準にまで回復しました。しかしながら、医療現場においては、感染症対応の長期化に伴う看護職員の離職増加や慢性的な人材不足の影響により、病棟運営や看護提供体制の維持に大きな課題を抱える状況が継続しました。

また、令和6年度から開始された「医師の働き方改革」に伴い、地域医療を取り巻く環境は大きく変化し、山梨県内においても医師不足が深刻化しました。特に富士・東部医療圏においては周産期医療の集約化が進められ、当院においても周産期部門の縮小による医業収益への影響が顕在化するなど、病院経営上極めて厳しい状況となっております。

このような中、当院では、日本赤十字社の使命である人道的医療活動の実践を基本としながら、「地域に必要とされ続ける病院」を目指し、地域医療構想や地域包括ケアシステムへの対応を踏まえた病院機能の再編、感染症対策機能の強化、災害救護体制の充実及び医療従事者確保対策等を重点施策として病院運営に取り組んでまいりました。

○ 医療供給体制の充実

(1) 周産期医療集約化に伴う収益減少への対応 (地域包括医療病棟入院料の取得に向けた整備)

富士・東部医療圏における周産期医療の集約化に伴い、当院の主要な収益源であった分娩・周産期医療分野において大幅な減収が見込まれる状況となった。このため、急性期医療に加え、高齢者救急及び在宅復帰支援機能を強化した新たな病院機能への転換を進めることとした。

具体的には、令和6年度診療報酬改定において新設された「地域包括医療病棟入院料」の施設基準取得を目指し、3階東急性期一般病棟について、53床から51床へ病床再編を行うとともに、回復期機能を備えた地域包括医療病棟への改修工事を実施しました。改修工事は令和7年2月末に完了し、施設基準取得に必要な運営体制、職員教育、院内運用整備等を進め、2025年9月より施設基準を取得し、収益減少の対応策として地域包括医療病棟の運営を開始した。

当地域では人口減少が進行する一方、高齢者人口は今後も高い水準で推移することが見込まれており、特に85歳以上の高齢者における医療・介護複合ニーズへの対応が重要課題となっている。このため、救急受入れから急性期治療、リハビリテーション、在宅復帰支援までを一体的に担う地域包括医療病棟の整

備は、地域医療ニーズに即した重要な機能転換であり、地域包括ケアシステム推進に寄与するものとなった。

(2) 新たな感染症発生時への事前対策

(感染患者管理体制の強化)

新型コロナウイルス感染症対応において経験した院内クラスター発生等の教訓を踏まえ、新たな感染症発生時においても安定した医療提供を継続できる体制整備を重点的に実施した。

山梨県協定締結医療機関施設整備事業費補助金を活用し、2階及び3階東急性期一般病棟の全面改修工事を進め、令和7年2月末に整備を完了した。

本整備では、富士・東部医療圏において唯一となる19床の完全隔離対応可能な個室管理体制を構築するとともに、感染性病原体の院外流出防止を目的として全室陰圧化設備を導入した。また、患者療養環境の改善を目的としてユニット型トイレ・シャワー設備を整備し、さらに感染患者専用導線を確保するためのゾーニング設備を導入した。

これにより、新型コロナウイルス感染症に限らず、今後発生が懸念される新興感染症や重篤感染症患者への対応能力が向上し、富士・東部地域における感染症医療提供体制の中核的役割を担う基盤整備が図られた。

(3) 病院機能評価受審への取り組み

新型コロナウイルス感染症の影響により延期していた病院機能評価について、令和8年9月の受審に向けた本格的な準備を進めた。

受審準備では、病院運営管理体制、医療安全対策、感染防止対策、患者サービス、医療の質改善活動等について院内横断的な見直しを実施し、各種マニュアル及び手順書の再整備を行った。また、部署別ヒアリングや自己点検を通じて課題抽出を進め、継続的な改善活動を実施した。

病院機能評価受審は、第三者による客観的評価を通じて医療の質向上を図るとともに、地域住民に対し安全で信頼性の高い医療提供体制を示す重要な機会であり、今後も継続的改善に努めていくこととした。

(4) MRI 装置(磁気共鳴画像撮影装置)の更新

導入後16年が経過し老朽化が進んでいたMRI装置について、計画的な更新を実施した。

更新にあたっては、厳しい経営環境を踏まえ、国立病院機構が実施する大型医療機器共同入札へ参加し、導入費用の抑制を図った。

新規導入機器については、高画質化及び検査時間短縮機能を備え、患者負担軽減及び診断精度向上に寄与するものとなった。また、地域医療機関との連携強化及び高度医療提供体制の維持にも資する設備更新となった。

(5) 医療従事者確保及び職場環境改善への取り組み

全国的な医療従事者不足が深刻化する中、とりわけ看護職員不足は病院運営に直結する重要課題となった。このため、当院では医療従事者確保及び離職防止対策を重点施策として取り組んだ。

人材確保対策として、看護師、介護福祉士、看護助手、社会福祉士等について派遣委託業者を積極的に活用するとともに、SNS 等を活用した求人情報発信を強化した。また、専門資格取得支援制度やキャリア形成支援制度の周知を進め、人材育成型採用活動を推進した。

さらに、外国人看護師及び外国人介護福祉士養成に向けた奨学金制度活用を推進するとともに、赤十字病院グループ間における人的支援要請や県内潜在有資格者の掘り起こしを実施し、人材確保に努めた。

離職防止対策としては、病棟単位での適正配置人数の検証、勤務シフト改善、有給休暇取得状況管理の徹底を行うとともに、病棟業務実態調査を実施し、業務負担軽減及び働きやすい職場環境整備に取り組んだ。

○ 赤十字施設としての取り組み

(1) 災害救護活動の充実

災害救護活動訓練及び研修等への参加を積極的に行い、令和7年度は日赤第2ブロック支部災害救護訓練や県の広域医療搬送訓練へ、計3回延べ16名が参加した。

さらに、DMAT研修会等には、計2回延べ3名が参加し、令和7年度末のDMAT登録者は25名である。

(2) BCP(医療継続計画)

BCPは、災害などの緊急事態が発生したとき、損害を最小限に抑え、事業の継続や復旧を図るための計画である。当院は日本赤十字社の医療機関であり災害時には、被災者の治療を提供することが求められる。発災直後、発災から被災者の来院が始まるまで、被災者の対応、そして通常業務の再開などそれぞれの局面での対応が円滑に出来ることが必要である。当院の設備、マンパワーを活かして令和8年3月に大規模災害を想定した院内訓練を実施した。

2 山梨県赤十字血液センター

日本赤十字社では、平成24年度より血液事業の運営体制を広域化し、全国を7つのブロックに分け都道府県の枠を超えての需給体制を構築しており、「効率的な事業運営」、「血液製剤の安全性の向上」及び「安定供給の確保」が図られているところです。

山梨県赤十字血液センターについては、関東甲信越ブロック(1都9県)とともに「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」や「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」などの関係法令を遵守した事業管理体制を構築して事業に取り組んでおります。

(1) 血液製剤の安定供給

令和7年度の供給実績は、赤血球製剤 36,839 単位(対前年度比 102.6%)、血漿製剤 10,964 単位(対前年度比 89.1%)、血小板製剤 37,455 単位(対前年度比 110.6%)で、総供給単位数は 85,258 単位でした。前年度比 103.9%となり、前年度実績を 3,183 単位上回りました。

製剤別にみると、赤血球製剤は、20 単位以上を使用する大量出庫事例が複数あり、前年度より微増しました。血漿製剤は、血漿交換症例数が減少したことにより、前年度より減少しました。血小板製剤は、血液内科の血小板輸血依存患者が多かったこと等により、前年度より増加しました。

高齢化の進展により、輸血用血液製剤を必要とする高齢者の人口が増加しています。しかしながら、1週間を基軸とした綿密な需要予測と広域需給管理体制のメリットを最大限に生かすことにより、過不足のない安定した供給ができました。

供給実績

(200mL 献血由来製剤を 1 単位とする)

	全血製剤	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤	合 計
令和6年度	0	35,893	12,302	33,880	82,075
令和7年度	0	36,839	10,964	37,455	85,258
前年度比		102.6%	89.1%	110.6%	103.9%

(2) 献血者確保状況

献血バスでは、既存の献血協力団体に加え、休眠団体の再実施や、新規協力団体の開拓を各団体や保健所及び市町村の協力を得ながら行いました。また、献血バス1台あたり 400mL 献血で 50 人の確保を目標に、昨年度に引き続き担当者との打ち合わせ、広報活動、献血セミナーの実施や献血経験のある方へのハガキ・メールによる依頼などを行うことで、必要な献血量を確保できました。

献血ルームでは、移転から3年が経過しましたが、毎月の計画に対しては依頼メールの定期配信を行うとともに、季節キャンペーンの実施などで計画数の確保を目指しております。しかしながら現ルームの環境等により、厳しい状況が続いております。今後は献血ルームに動員協力いただける新規団体の更なる獲得を目指しているところです。

また、予約献血は、献血ルームでは多くの方に利用されておりましたが、献血バスにおいても徐々に予約献血が広まりつつあります。予約時間に合わせて来場いただいたり、事前問診に回答いただく等、

献血会場での待ち時間や滞在時間の短縮が出来るなど、献血者にも利便性が大きいことから今後も積極的に推進を図って参ります。

全血献血に占める 400mL 献血の割合については、高等学校以外の献血会場で 400mL 献血を強力に推進した結果 97.1%となり、97.0%以上である医療機関の需要に近い採血を行うことが出来ました。

若年層献血の推進については、高等学校や大学・専門学校での献血の実施や、献血の重要性を高校生に知ってもらうための献血セミナーを昨年度より多くの学校で実施することができました。また、献血の所要時間の短縮を図るために、献血 Web サービス「ラブラッド」を使用した、献血の予約・事前問診の推進を行いました。

採血実績

(単位:人)

区 分	200mL	400mL	成 分	合 計	計画人数	計画比
献血バス	675	17,221	0	17,896	17,343	103.2%
献血ルーム	69	7,483	12,288	19,840	18,559	106.9%
合 計	744	24,704	12,288	37,736	35,902	105.1%

(3) 輸血用血液製剤の安全対策

従来から実施している献血受け入れ時の献血者の本人確認の実施など、「安全性の向上」に向けた 8 項目の対策を適切に実施しました。

(4) 各種キャンペーン・イベントの推進

若年層献血・複数回献血の推進に努め、成分献血・400mL献血の理解促進に主眼をおいたキャンペーンを実施しました。

実施月日	キャンペーン名	場所	内容	献血者数
令和7年 6月8日	世界献血者デー	イオンモール 甲府昭和 甲府献血ルーム	街頭献血イベント 献血ルームイベント	134 人
7月13日	愛の血液助け合い運動	イオンモール 甲府昭和	街頭献血イベント	61 人
9月13日	ヴァンフォーレ 甲府応援献血	小瀬スポーツ公園	街頭献血イベント	62 人
10月28日	ハロウィン献血	イオンモール 甲府昭和	学生献血推進協議会による 街頭献血イベント	76 人

12月14日	全国学生 クリスマス献血 キャンペーン	イオンモール 甲府昭和	学生献血推進協議会による 街頭献血イベント	69人
令和8年 1月12日	はたちの献血	イオンモール 甲府昭和	街頭献血イベント	63人
2月23日	ふじさん献血	イオンモール 甲府昭和	静岡県赤十字血液センター との合同献血イベント	71人
通年	令和6年度献血 推進方策		各種キャンペーン、 CM放送による若年層への 献血啓発	
通年	VF甲府との コラボ企画		ポスター・クリアファイルの 作成・配付、献血啓発	

(5) 医薬情報活動

① 医療機関への情報提供

輸血用血液製剤に関する情報提供について、下表のとおり情報媒体を県内医療機関へ配付しました。また、輸血管理部門担当者や医師・看護師等を対象とした説明会や医療機関の理解を得て院内輸血療法委員会へ出席し情報提供を行いました。

お知らせ

発行月	内 容
令和7年 5月	細菌スクリーニング導入後の血小板製剤の外観について
令和7年 6月	細菌スクリーニングを導入した血小板製剤の薬価基準収載及び供給開始等のお知らせ
令和7年 7月	輸血用血液製剤の注意事項等情報改訂のお知らせ

輸血情報

発行月	内 容
令和7年 7月	輸血情報 2508-187 輸血用血液製剤の取り扱いについて(2303-179の改訂版)
令和7年 9月	輸血情報 2509-188 輸血用血液製剤との関連性が高いと考えられた感染症症例－2024年－
令和7年 9月	輸血情報 2509-189 赤十字血液センターに報告された非溶血性輸血副作用－2024年－
令和7年 9月	輸血情報 2509-190 細菌スクリーニング陰性で細菌が増殖した血小板製剤について
令和7年11月	輸血情報 2511-191 「輸血用血液製剤保管管理ガイド」について

②医療機関との連携

医療機関との連携による輸血副作用情報の収集について、7施設から129件を収集しました。

③主催セミナーの開催

県内医療機関における輸血医療の向上を目的として、看護師対象の応用編輸血セミナーをオンラインで開催しました。また、医療機関と血液センターの相互理解を深める目的として、新たに輸血管理部門担当者を対象とした供給セミナーを開催しました。

看護師対象 応用編輸血セミナー

開催年月日	内 容	参加者
令和7年7月25日	講義「血液製剤の種類と特徴、新規血小板製剤について」 「血液製剤の安全対策」 「副作用の発生状況と事例紹介」 「看護現場における輸血 Q&A」※ (※講師:山梨県立中央病院 臨床輸血看護師 中林遥)	29 施設 74名

輸血管理部門担当者対象 供給セミナー

開催年月日	内 容	参加者
令和8年 3月3日	血液製剤の供給に関する講義 供給作業室、献血運搬車、採血バスの見学 意見交換会 輸血セットの取り扱い(実習、希望者)	8施設 8名

④医療機関での説明会・輸血療法委員会への参加

輸血管理部門担当者や医師・看護師等を対象とした院内説明会を8回開催しました。また、医療機関の理解を得て院内輸血療法委員会へ5施設のべ9回出席しました。

⑤山梨県合同輸血療法委員会

山梨県では「山梨県合同輸血療法委員会」を設置し、血液製剤の適正使用の推進及び安全な輸血医療の確保に取り組んでおり、血液センターも委員および事務局として参加し協力しました。

開催月日	会議名	内容
令和7年 5月13日	第1回 I&A 委員会(オンライン)	相互視察に向けて指摘事項等の確認
令和7年 5月22日	I&A 委員会相互視察(現地)	相互視察(対象:JCHO 山梨病院)
令和7年 6月30日	山梨県合同輸血療法委員会	令和6年度事業報告について

	(山梨県赤十字血液センター会議室)	令和6年度当県の現状について 令和7年度事業計画案について 血液センターからの情報提供(新規血小板製剤について)
令和7年 9月30日	看護師対象輸血セミナー (オンライン)	輸血用血液製剤が届くまで 輸血用血液製剤の種類と特徴 輸血副作用 看護師が行う輸血の実施業務
令和7年11月21日	第2回 I&A 委員会(オンライン)	相互視察に向けて指摘事項等の確認
令和7年12月 4日	I&A 委員会相互視察(現地)	相互視察(対象:大月市立中央病院)
令和7年12月18日	山梨県合同輸血療法委員会 委員長会議(オンライン)	「アルブミン製剤の適正使用について」 (日本血液製剤機構 岡本訓典)他
令和8年 1月22日	血液製剤の需給に係る連絡会議 (山梨県立文学館研修室)	令和6年度の当県の現状について グループワーク「輸血関連インシデント事例を考える」 講演「輸血用血液製剤保管管理ガイドについて」(血液事業本部 奥田誠) 他

⑥山梨輸血研究会

山梨輸血研究会は、県内輸血医療関係者で構成されている研究会で、血液センターが事務局をしています。輸血医療の向上と情報交換を目的とし、研究会の開催や会報の発行、ホームページの管理を行っています。

第41回 山梨輸血研究会総会	開催日:令和8年2月14日(土) 開催方法:ハイブリッド形式 場 所:山梨大学医学部 臨床講義棟小講堂 / Microsoft Teams 一般演題:3題 教育講演:「軽症アレルギー性輸血副反応と 食物アレルギー既往の関連性に関する解析」 山梨大学医学部附属病院 輸血細胞治療部 高野 勝弘 先生 特別講演:「アジア人型 DEL を中心とした輸血の進歩」 福島県立医科大学 副学長 大戸 斉 先生
-------------------	--

(6)骨髄バンクへの協力状況

①ドナー(骨髄提供希望者)登録受入及び検体採血

②ドナー登録会への協力

③令和 8年 3月末現在 県内有効登録者数 1,940 人 全国 564,155 人

(7)会議、研修会等の開催と参加

県や献血関係諸団体等と連携し、研修会等を開催しました。

＊ 諸会議

実施月日	会議名	場 所	内 容
令和 7 年 4 月 25 日	山梨県献血推進 協議会総会	山梨赤十字会館	事業報告及び山梨県献血推進 計画(案)の協議、献血及び供給 の現状の説明
5 月 21 日	血液事業推進会議・ 市町村血液事業 担当者会議	山梨県防災新館 オープンスクエア	事業報告及び山梨県献血推進 計画の説明、献血及び供給の現 状の説明、保健所・市町村の取り 組みの発表
11 月 13 日	ライオンズクラブ国際協 会 330-B 地区と赤十字 血液センター合同会議	ベルクラシック甲府	血液事業の現状及び今後のお 願い、講演「糖尿病のお話(血液 事業から見た)」、血液事業の現 状及び今後のお願い
令和 8 年 3 月 10 日	血液事業推進会議	オンライン会議	山梨県献血推進計画(案)につ いて、献血・供給の状況及び計 画について、献血団体名簿につ いて、各保健福祉事務所の献血 推進状況について

＊ 研修会等への参加

実施月日	研修会名	会 場	参加人数
令和 7 年 5 月 7 日	甲斐シティーRC 例会	キングスウェル	17 人
6 月 10 日	山梨県高等学校・特別支 援学校副校長・教頭連絡 会議	山梨県総合教育センター	67 人
6 月 19 日	山梨県高等学校・特別支 援学校 養護教諭連絡会 議	山梨県総合教育センター	37 人
7 月 3 日	西桂町献血推進協議会	西桂町いきいき健康福祉センター	18 人
7 月 9 日	甲府ホテル旅館協同組合	甲府献血ルーム	18 人
11 月 17 日	甲州青年会議所理事会	甲州青年会議所理事会会場	15 人

令和8年 3月3日	天理教山梨教区	天理教山梨教務支庁	35人
3月4日	都留ライオンズクラブ理事会	都留市まちづくり交流センター	13人

＊ 若年者献血セミナー事業

実施月日	研修会名	会 場	参加人数
令和7年 5月23日	献血に関するセミナー	山梨県美容専門学校	158人
6月11日	献血に関するセミナー	身延山高等学校	20人
6月11日	献血に関するセミナー	自然学園高等学校	18人
6月13日	献血に関するセミナー	自然学園高等学校	15人
8月25日	献血に関するセミナー	県立都留高等学校	172人
8月29日	献血に関するセミナー	山梨県立大学	20人
9月30日	献血に関するセミナー	駿台甲府高等学校	294人
10月6日	献血に関するセミナー	県立上野原高等学校	55人
10月22日	献血に関するセミナー	県立韮崎工業高等学校	243人
10月24日	献血に関するセミナー	帝京第三高等学校	131人
11月5日	献血に関するセミナー	日本大学明誠高等学校	331人
11月12日	献血に関するセミナー	県立塩山高等学校	54人
11月18日	献血に関するセミナー	甲府医療秘書学院	36人
12月3日	献血に関するセミナー	県立白根高等学校	125人
12月12日	献血に関するセミナー	県立青州高等学校	258人
12月17日	献血に関するセミナー	県立都留興譲館高等学校	170人
令和8年 1月6日	献血に関するセミナー	県立北杜高等学校	160人
1月14日	献血に関するセミナー	日本大学明誠高等学校	307人
1月28日	献血に関するセミナー	甲斐清和高等学校	102人
2月4日	献血に関するセミナー	県立甲府工業高等学校	241人

2月 25 日	献血に関するセミナー	県立吉田高等学校	223 人
---------	------------	----------	-------

(8) 献血推進功績者に対する表彰

① 第 61 回献血運動推進全国大会

令和 7 年 7 月 16 日に宮城県(仙台サンプラザホール)において開催されました。

② 献血感謝のつどい in 山梨

令和 7 年 10 月 17 日に防災新館やまなしプラザ(オープンスクエア)において実施されました。
献血推進に功績のあった 4 団体に山梨県知事表彰、個人 73 人に日本赤十字社表彰(金色有功章)、
102 人に日本赤十字社表彰(銀色有功章)が贈呈されました。

③ 多回献血者顕彰

献血回数	10 回	782 名
	30 回	332 名
	50 回	126 名
	感謝 A	141 名
	感謝 B	33 名
	感謝 C	44 名
合 計		1,458 名

※令和 2 年 11 月より献血者顕彰規程が改正されました。